



令和7年度前期学校評価アンケートについて

令和7年度 前期学評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

7月に実施した前期学校評価アンケートの結果と分析をお知らせします。結果を今後の教育活動に生かしてまいります。

◇実施期間 令和7年7月1日～7月15日

◇対象者 白河総合支援学校生徒・保護者・教職員

◇方法 ・アンケートフォーム（Forms）およびアンケート用紙にて回答
・各項目の「適合度」を4段階で評価
・「そう思う」「大体そう思う」を「肯定的回答」とし、「あまりそう思わない」「そう思わない」を「否定的回答」として分析

◇回答率 生徒 100% 保護者 97% 教職員100%

◇分析結果 ・百分率で数値を表記
・【確かな学力】【豊かな心】【健やかな体】【独自の項目】について、項目別に対象者別の回答を比較分析
・【服務】については、教職員のための項目として分析
・肯定的回答85%以下、否定的回答15%以上の項目は■で表示
・昨年度前期との比較で、肯定的回答が5%以上の向上が見られた項目は■、肯定的回答が5%以上の低下が見られた項目は■■■■■で表示

【確かな学力】

この項目では、生徒が自分の目標を理解し、その目標に向かって学習に取り組んでいるか、また、達成度について評価できているか、目標に近づく姿が見られるかについて尋ねています。

分野		教職員					保護者					生徒			
		肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比		肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比		肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比
確かな 学力	1 個別の包括支援プランに基づいて計画的な指導や支援を行っている	98%	-2%	2%	2%	子どもの目標や学習計画に基づく計画的な指導や支援がされている	98%	0%	2%	0%	先生は「何のために勉強するか」をわかりやすく教えてくれる	95%	4%	5%	-4%
	2 生徒や保護者に短期目標と評価、実習の目標と評価を伝えている	100%	-2%	0%	-2%	短期目標や評価について、学校は保護者に適切に伝えている	98%	1%	2%	-1%	今、現在の自分の目標がわかっている	93%	4%	7%	-4%
	3 生徒が自己目標に一生懸命に取り組める活動を用意している	98%	0%	2%	0%	子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる	91%	-2%	9%	2%	目標に向かって学習に取り組んでいる	96%	9%	4%	-9%
	4 生徒は満足感や達成感をもち、専門科（地域協働）の学習に取り組んでいる	100%	4%	0%	-4%	子どもは専門科（地域協働）の授業に満足感や達成感を感じている	95%	3%	5%	-3%	専門科（地域協働）の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	92%	5%	8%	-5%
	5 生徒は満足感や達成感を持ち、教科の学習に取り組んでいる	96%	0%	4%	0%	子どもは教科の授業に満足感や達成感を感じている	91%	7%	9%	-7%	教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	89%	13%	11%	-13%
	6 生徒は満足感や達成感をもち、職場等実習に取り組んでいる	98%	-2%	2%	2%	子どもは職場等の実習に満足感や達成感を感じている	92%	0%	8%	0%	職場実習で「できた」「うれしかった」ことがある	96%	8%	4%	-8%
	7 生徒の働く意欲や働くために必要な姿勢や態度を育むことができている	98%	4%	2%	-4%	子どもは働く意欲や働くために必要な姿勢や態度が育ってきた	86%	-3%	14%	3%	一生懸命働くという気持ちや職場で必要な態度が身についている	96%	7%	4%	-7%
	8 生徒の学習の結果や努力・達成度を評価し、授業改善・指導法の改善に活かしている	98%	-2%	2%	-2%	子どもの努力や達成度が評価されている	98%	5%	2%	-5%	先生は、学習の成果（できるようになったこと等）を伝えてくれる	96%	1%	4%	-1%

すべての質問項目において、肯定的回答が86%以上となりました。昨年度前期のアンケート結果で他の質問項目よりも肯定的回答が低くなっていた、保護者の『子どもは教科の授業に満足感や達成感を感じている』、生徒の『教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある』の質問項目においては、昨年度と比べて保護者+7%、生徒+12%と肯定的回答の数値が高くなりました。他にも、肯定的回答が向上した項目が多くありました。

本校では、生徒が「できたこと」や「頑張れたこと」に気づき、自らの成果や成長を実感できるよう、学習のねらいや課題を具体的に示す授業づくりを重視してきました。今回の学校評価アンケートの結果から、生徒が自分自身の目標や課題を明確に理解し、「何のために学ぶのか」という目的意識を持って学習に取り組む姿勢を育むことに繋げることができていると考えられます。今後も、伝え方・提示方法・教材選定などを工夫しながら授

業づくりに取り組み、生徒が目的意識を持って主体的に学べる学習環境の整備に努めてまいります。これにより、生徒の意欲的な姿勢を引き出し、達成感や満足感を得られる授業の展開を目指していきます。

さらに、今後は、目的意識を持って学ぶだけでなく、「自分が目指す姿」を明確にし、その実現に向けて必要な力を身につけることを目指した学習支援が重要であると考えます。そのためには、生徒自身が学習の目標を設定し、自己決定を通じて学びに向かう姿勢を育てることが求められます。こうした取組により、生徒は「自分は何をしたいのか」「なぜそれをするのか」といった問いに対する自覚を深め、より主体的な学びへとつなげることができると考えます。また、これらの取組は、自己肯定感や自己有用感の向上にも繋がる考えられるため、今後の教育活動において継続的に取り組んでまいりたいと思います。

【豊かな心】

この項目では、自己肯定感や自己有用感にかかわる内容について尋ねています。

分野		教職員				保護者				生徒					
		肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比	肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比	肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比		
豊かな心	9 生徒の良いところや得意なところを伸ばすことを意識して指導している	100%	4%	0%	-4%	子どもには良いところや得意なところがある	97%	-2%	3%	2%	自分の好きなところや得意なことをよく知っている	91%	2%	9%	-2%
	10 生徒の自己有用感を高めるため、「役に立ちたい」という思いを促すような活動を用意している	96%	2%	4%	-2%	子どもには「誰かの役に立っている」と実感できる学習が準備されている	90%	-3%	10%	3%	自分はだれかの役に立っていると思う	79%	19%	21%	-19%
	11 生徒の自己肯定感を高めるため、生徒の人格を尊重した言葉かけや指導・支援を行っている	96%	-2%	4%	2%	教職員は子どもの生活年齢や発達段階に応じた適切な言葉かけや指導をしている	96%	4%	4%	-4%	先生はわかりやすく丁寧な言葉づかいをしてくれ、自分のことをわかってくれる	90%	-2%	10%	2%
	12 生徒が友達や仲間を大切にし、お互い認め合いながら、協力し合えるよう指導や支援をしている	96%	0%	4%	0%	子どもは友達や仲間を大切に、お互い認め合いながら、協力している	92%	2%	8%	-2%	友達や仲間を大切に、お互い認め合いながら、協力している	92%	5%	8%	-5%
	13 生徒に自分から積極的に挨拶するよう指導や支援をしている	100%	2%	0%	-2%	子どもは自分から積極的に挨拶している	83%	-6%	17%	-6%	自分から元気よく挨拶ができる	82%	3%	18%	-3%
	14 生徒に学校の決まりや約束を守って学校生活を送るよう指導・支援している	98%	0%	2%	0%	子どもは学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	92%	0%	8%	0%	学校のきまりや約束を守っている	89%	0%	11%	0%
	15 生徒に家庭内で決まった役割を担うように促している	96%	9%	4%	-9%	子どもには家庭で決まった役割があり、実行している	82%	-4%	18%	4%	家庭で決まった役割（例えば、お手伝い）があり、実行している	92%	14%	8%	-14%
	16 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている	98%	2%	2%	-2%										
	17 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している	73%	2%	27%	-2%										
	18 生徒・保護者の話し（アンケート結果含む）や相談内容を共有している	98%	11%	2%	-11%										
	19 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している	93%	4%	7%	-4%										

各質問項目において、おおむね肯定的回答が高くなっています。生徒の『自分はだれかの役に立っていると思う』の質問項目の肯定的回答が79%と低い数値となっていますが、昨年度と比べて+19%と、数値が高くなりました。この項目は、過去数年間にわたり低い傾向が続いており、自己有用感の育成が継続的な課題であることが示されています。自己有用感とは、誰かの役に立っている、貢献していると感じることによって得られる「自分は価値ある存在である」という感情であり、これは自己肯定感の向上にも深く関係しています。本校では、地域協働活動やグループワークなど、生徒が他者と関わりながら役割を果たす機会を意図的に設けることで、自己有用感の育成に取り組んできました。今回の数値の改善は、こうした取組の成果が少しずつ表れてきているものと考えられます。今後も、生徒一人ひとりの思いに寄り添いながら、目標や役割を自ら決める機会を大切に、行動や成果だけでなく、その過程における努力を認める姿勢を継続していきます。結果に関わらず、生徒自身の姿を肯定的に捉えることで、自己肯定感・自己有用感のさらなる向上を目指します。また、日常的なコミュニケーションを通じて、生徒の個性や努力を認める関わりを重ねることで、生徒が自信を持って主体的かつ積極的に活動できる学習環境の整備に努めてまいります。

保護者の『子どもは自分から積極的に挨拶している』、生徒の『自分から元気よく挨拶ができる』の質問項目で肯定的回答が80%台前半とやや低い数値となっています。挨拶は、コミュニケーションの基本であり、会話のきっかけとなる大切な行為です。人間関係を円滑にする第一歩であり、社会生活を送る上で欠かせないコミュニケーション力の一つです。今年度のアンケート結果からも、昨年度と同様に、挨拶の重要性に対する認識や日常実践に課題があることが伺えました。本校では、挨拶を通じて心地よい人間関係を築くことを目指し、日頃から挨拶を交わし合う雰囲気づくりに取り組んでいます。挨拶を交わすことで得られる安心感やつながりを生徒自身が感じることで、自然と挨拶の習慣が身につくと考えています。生徒会が中心となって『あいさつ運動』を継続的に実施するなど、学校全体で挨拶を大切にする意識を高める取組も進めています。今後も、生徒と教職員

が一体となって、互いを認め合い、気持ちよくコミュニケーションが取れる環境づくりを継続してまいります。

教職員の『学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している』の質問項目の肯定的回答が73%（前年度比+2%）となっており、依然として十分な認知とは言えない状況ではありますが、少しずつ意識の向上が図られていることがうかがえます。生徒が安心して学校生活を送るためには、いじめ対策委員会の存在や役割を生徒に周知し、相談しやすい環境を整えることが重要です。本校では、教職員が一丸となっていじめの未然防止と早期対応に努めており、その姿勢を生徒に伝えることも大切にしています。今後も、定期的な『いじめ・不登校対策委員会』の開催に加え、心配される事案が発生した際には迅速に対応できるよう、柔軟な体制を整えてまいります。生徒への啓発活動を継続しながら、学校全体で安心・安全な環境づくりに取り組んでいきます。

【健やかな体】

この項目では、健康に関することについて尋ねています。

分野		教職員				保護者				生徒					
		肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比	肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比	肯定的 回答	前年 度比	否定的 回答	前年 度比		
健やかな 体	20 生徒に適切な食生活を送れるように指導している	91%	7%	9%	-7%	子どもは朝ごはんをきちんと食べている	88%	9%	12%	-9%	朝ご飯をきちんと食べている	87%	10%	13%	-10%
	21 生徒に衛生に関する指導・支援を行っている	98%	7%	2%	-7%	子どもは日常的に清潔しようとしている	85%	-1%	15%	8%	清潔にすることを心がけている（例えば、毎日の入浴や着替え、手をこまめに拭くなど）	98%	3%	2%	-3%
	22 性について、生徒が正しく理解し、適切な行動が取れるように指導・支援を行っている	98%	9%	2%	-9%	子どもは性と生の理解を深め、自分の身体を大切にしようとしている	83%	0%	17%	0%	性と生について学習し、自分の身体を大切にしながら生活している	97%	3%	3%	-3%
	23 休日等に実施されている各種スポーツ、文化的催しに参加するように生徒に促している	82%	2%	18%	-2%	子どもは休日にリフレッシュできる活動をしている	91%	2%	9%	-2%	休日は趣味やスポーツ、サークル活動などに取り組んでいる	78%	6%	22%	-6%

教職員の『生徒に適切な食生活を送れるよう指導している』の質問項目で肯定的回答が91%（前年度比+7%）、保護者の『子どもは朝ごはんをきちんと食べている』の質問項目で肯定的回答が88%（前年度比+9%）、生徒の『朝ごはんをきちんと食べている』の質問項目の肯定的回答が87%（前年度比+10%）となりました。この項目は、過去数年間にわたり肯定的回答が低い傾向が続いていましたが、今年度は改善が見られ、食生活に対する意識が少しずつ高まってきていることが伺えます。特に、朝食の重要性についての啓発が、生徒の意識の変化につながっていると考えられます。朝ごはんは、一日の始まりにおける大切なスイッチであり、栄養を補給し、脳や身体をしっかりと目覚めさせる役割を果たします。働く生活を送るうえでも、栄養や休養をしっかりとすることは基本であり、本校ではその重要性を日常的に伝えてきました。今後も、生徒が食事の大切さに気づき、健康的な生活習慣を身につけられるよう、教科の学習に限らず、さまざまな場面で食育の視点を取り入れた指導を継続していきます。生徒一人ひとりの生活習慣に寄り添いながら、健やかな成長を支える教育活動を推進してまいります。

昨年度より新設した『性と生』に関する質問項目では、教職員98%、保護者83%、生徒97%といずれも比較的高い肯定的回答が得られました。特に教職員・生徒の回答からは、学習内容への理解と意義の認識が広がっていることが伺えます。一方で、保護者の肯定的回答は85%を下回っており、今後さらに理解を深めていく必要があると考えています。本校では、外部講師による授業の実施など、多角的なアプローチを通じて『性と生』の学習を進めており、生徒が正しい知識を身につけ、自分の身体の成長を理解し、大切にすることを育むことを目指しています。今後も、学校での取組をホームページやお便りなどを通じて積極的に発信し、保護者の皆様にも学習の意義や内容を共有していきます。学校と家庭が連携しながら、包括的な性教育を継続的に推進し、生徒の健やかな成長を支えていきたいと考えます。

生徒の『休日は趣味やスポーツ、サークル活動などに取り組んでいる』の質問項目は、肯定的回答が78%（昨年度比+6%）をとっています。また、教職員の『休日等に実施されている各種スポーツ、文化的催しに参加するよう促している』の質問項目は、82%（昨年度比+2%）となっています。いずれも80%前後の数値ではあるものの、他の項目と比較するとやや低めであり、引き続き意識の向上が求められる分野です。学校目標にも掲げている「豊かで質の高い生活の実現」に向けては、自分なりの充実した休日の過ごし方を見つけ、ライフワークバランスを整えることが重要です。今後も、生徒が趣味の幅を広げたり、好きなことに没頭したり、余暇を思う存分楽しめる時間を持てるよう、自己理解を深める学習や、ICTを活用した情報収集の方法などを取り入れながら、様々なことにチャレンジする気持ちを育てていきたいと考えています。生徒一人ひとりが自分らしい生活スタイルを築けるよう、学校として継続的に支援していききたいと思います。

【独自の項目】

この項目では、企業との連携、地域との協働を図りながら進めている学習について、および、情報モラルに関することについて尋ねています。

分野		教職員				保護者				生徒				生徒			
		肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比	肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比	肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比	肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比
独自の 項目	24 企業との連携・協働による学習環境が設定できている	100%	0%	0%	0%	企業との連携・協働による学習環境が設定できている	93%	0%	7%	0%	企業の協力があり、職場実習などができていることに感謝している	96%	1%	4%	-1%		
	25 地域との連携・協働による学習環境が設定できている	98%	-2%	2%	2%	地域との連携・協働による学習環境が設定できている	94%	4%	6%	-4%	地域の協力があり、地域との活動ができていることに感謝している	92%	2%	8%	-2%		
	26 生徒、保護者、地域、企業等に本校の教育の趣旨や目的を理解できるように伝えている	100%	0%	0%	0%	保護者として、学校の教育の趣旨や目的を理解している	95%	0%	5%	0%	地域や企業等、学校外で学ぶ経験を通じて、校内でもより一生涯に学習することができ、決まりやルール、マナーを守って情報機器（スマートフォンやタブレット）やSNSを使用している	97%	5%	3%	-5%		
	27 情報モラルについての指導を積極的に行なっている	96%	0%	4%	0%	子どもはルールやマナーを守って情報機器やSNSを使用している	87%	-4%	13%	4%		95%	2%	5%	-2%		

企業との連携や地域との協働を通じて進めている学習活動についての各質問項目においては、肯定的回答が90%台と非常に高い評価を得ています。これは、生徒が多様な学びの場で主体的に活動していること、また、地域や企業との関わりが学習意欲の向上に繋がっていることを示していると考えます。今後も、企業や地域と連携した幅広い学びの機会を積極的に設け、生徒が様々な人・場所・ものと関わる中で、いきいきと学べる環境づくりを進めていきます。こうした経験を通して、生徒が自分自身を理解し、「なりたい自分」を思い描き、目標を持つことで、学びに対するやりがいや使命感を育み、主体的に活動する姿へとつなげていきたいと考えています。

一方で、情報モラルに関する質問項目では、保護者からの肯定的回答が昨年度比で4%減少する結果となりました。この傾向は、インターネットやSNSなど情報があふれる現代社会において、生徒が正しい情報を選び取り、適切に活用する力を十分に身につけているかどうかに対する保護者の不安を反映していると考えられます。情報化社会を生き抜くためには、情報リテラシーの向上とともに、自身の個人情報を守る情報セキュリティの知識を深めることが不可欠です。今後は、外部講師による授業の導入をはじめ、様々な角度からのアプローチを通じて、生徒が正しい知識を身につけ、情報社会に対応できる力を継続的に育てていきたいと考えています。

【サービスの項目】

この項目は、教職員のための項目です。働き方に関することについて尋ねています。

分野		教職員			
		肯定的 回答	前年 率比	否定的 回答	前年 率比
服務	28 報告・連絡・相談を意識して行い、情報の共有に努めている	96%	0%	4%	0%
	29 業務や会議の精選を図ることにより、勤務時間の縮減を図っている	89%	-4%	11%	4%
	30 職務の効率的な遂行を心掛けている	96%	-2%	4%	2%

『業務や会議の精選を図ることにより、勤務時間の縮減を図っている』の項目で、肯定的回答が昨年度比で4%減少しました。また『職務の効率的な遂行を心掛けている』の項目でも肯定的回答が昨年度比で2%減少しています。ここ数年は、働き方改革の取組の成果が数値に表れ、肯定的回答が上昇傾向にありましたが、今年度は減少に転じました。この背景には、今年度実施した指導体制の見直しが一因として考えられます。今後は、教職員一人ひとりが“働きがい”を実感し、持続的な成長を果たせる環境の整備に向けて、さらなる業務改善と体制の見直しを進めていきたいと思います。“働きやすさ”と“やりがい”の両立を図ることで、教職員の日々の生活や教職人生がよりウェルビーイングなものとなり、それが教育の質の向上にも繋がると考えています。教職員が生徒にとって身近な社会人のモデルとして、生き生きと働く姿を示すことができるよう、働く環境の整備を継続的に進めてまいります。